



「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

2024年 2月 15日	
所属部局・学年	野生動物研究センター
氏名	島田真優

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
鹿児島県屋久島
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
屋久島実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
2025年 1月 31日 ~ 2025年 2月 6日 (7日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
京都大学野生動物研究センター杉浦秀樹
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真(必ず1枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの)の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
今回の実習では、フィールド調査を体験した。
<ul style="list-style-type: none"><li>● ザトウクジラの目視調査 屋久島で長年調査をしている方にサポートしてもらいながら、ザトウクジラの目視調査をおこなった。屋久島付近の海域には、冬に繁殖のためザトウクジラが訪れるらしい。テールスラップ、ヘッドスラップ、ブロー、フルークアップなどの行動を観察することができた。ザトウクジラの尾びれは遠くから見てもとても大きく、その体の大きさを実感できた。目視調査2日目には母と子と思われる組み合わせを発見した。母と子はぴったりと寄り添って泳いでいて、母よりも頻りにブローを行っていた。ブローの大きさは体の大きさにおおよそ比例すると言われており、子のブローは母のブローより小さく、見つけるのが困難だった。ザトウクジラ以外にも、カツオドリやアオウミガメも観察することができた。</li></ul>

ザトウクジラのブロー
<ul style="list-style-type: none"><li>● 鳥の調査 山中の道路沿いにバードセンサスを行った。GPS を用いてウェイポイントまで進み、その場で5分間鳥の姿と鳴き声から種を同定するというのを繰り返した。ウェイポイントとその間の道中では、ハシブトガラス、ヤマガラ、ミソサザイ、メジロ、カケス、シロハラ、ヒガラ、ヒヨドリ、リュウキュウサンショウクイ、コマドリなどがいることが分かったが、冬の調査であったため、予想していたよりも数と種類ともに少なかった。調査期間以外にも、トラツグミ、ズアカアオバト、アオジ、ハクセキレイ、キセキセイ、ノスリ、カツオドリ、ジョウビタキなどを見ることができた。</li></ul>

リュウキュウサンショウクイ

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



トラツグミ

### ● ヤクシカ、ヤクザル

車の中から、林道沿いにヤクシカ、ヤクザルを観察することができた。ヤクシカもヤクザルも本土の個体よりも体サイズが一回り小さく、ヤクザルは体色が濃く、毛が長かった。ヤクザルは人や車に警戒する様子はなく、道路近くで互いに体を寄せ合ってサル団子を作り、寒さを凌いでいた。ヤクシカは、ヤクザルが上っている木の下に多く、ヤクザルが木から落とした葉を食べていた。



ヤクシカ



ヤクザル

### ● タイドプール

タイドプールで生き物を探し、写真を撮り、種を同定した。石をひっくり返すとヒトデ、貝、イソギンチャクなど様々な生物が見つかった。



クモヒトデ

### ● ハシブトガラスの観察

宿泊施設の目の前の海岸に集まっていたカラスの若鳥群れの観察を行った。海岸に漂着したゴミなどを探索したり、海風に乗って遊んでいるような行動や、飛ばずにわざわざ階段をジャンプしながら上っていく様子がみられた。親和関係を築いていると思われる組み合わせと一緒に探索したり、飛びながら軽い攻撃を仕掛けてじゃれあっているような様子が観察できた。最初海辺には少なくとも 50 羽以上の個体だったが、だんだんと 1～6 羽くらいでかたまって、民家や山など別の場所へ移動していき、ばらけていった。この時、離れた個体同士で鳴き交わしているような様子が見られた。ハシブトガラスは日本のあらゆるところで見られるが、京都や東京では海辺での遊び行動を見ることはなかったため、各地域の地理的な特徴や天候によっても異なる行動や文化が見られるのではないかと思い、大変興味深かった。

## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)



ハシブトガラスの若鳥群れ

### ● 感想

今回の実習では、屋久島の豊かな自然と生物多様性を実感し、寒さや風雨に耐えながら観察を長時間行うことの大変さを学んだ。今回学んだことを、今後の動物の観察や調査の際に活かしていきたい。

### 6. その他 (特記事項など)

本実習は、PWS よりご支援頂きました。ご支援に感謝申し上げます。